

---

# 2014年度(2015年3月期) 決算説明会

株式会社ダイヘン

2015. 6. 5



P1

---

# 2014年度 (2014年4月～2015年3月) 【 実 績 】



P2

# 業績サマリー

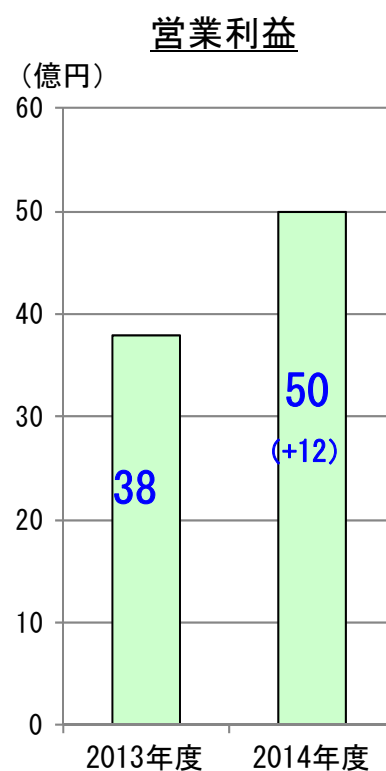
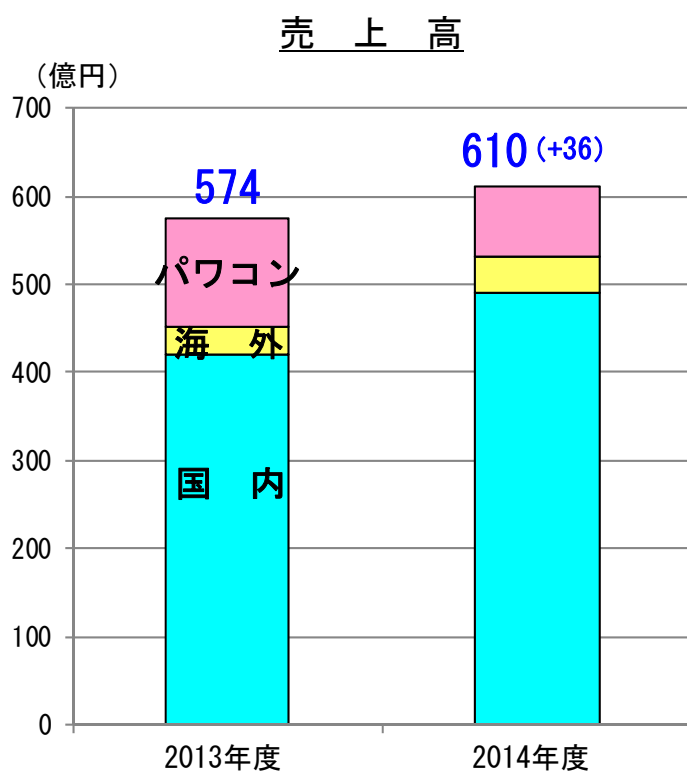
(単位：億円)

	2013年度		2014年度		前年度比	
	実績		実績		増減率	
売上高	1,092	1,220	+128	+11.8%		
1 電力機器	574	610	+36	+6.4%		
2 溶接メカトロ	381	455	+74	+19.4%		
3 半導体関連機器	134	152	+18	+13.3%		
営業利益	5.8% 63	6.9% 84	+21	+32.7%		
経常利益	6.1% 67	7.4% 90	+23	+34.7%		
当期純利益	3.0% 33	4.8% 58	+25	+77.3%		

DAIHEN

P3

## セグメント情報 1 電力機器

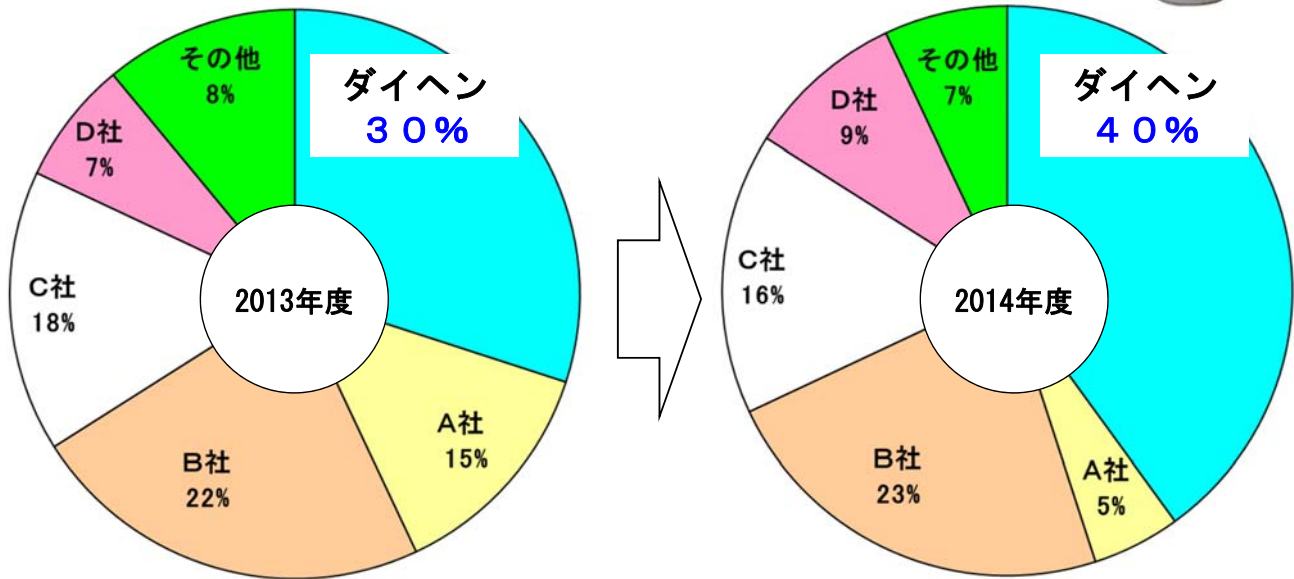


※ ( ) 内の数値は前年度比増減額

DAIHEN

P4

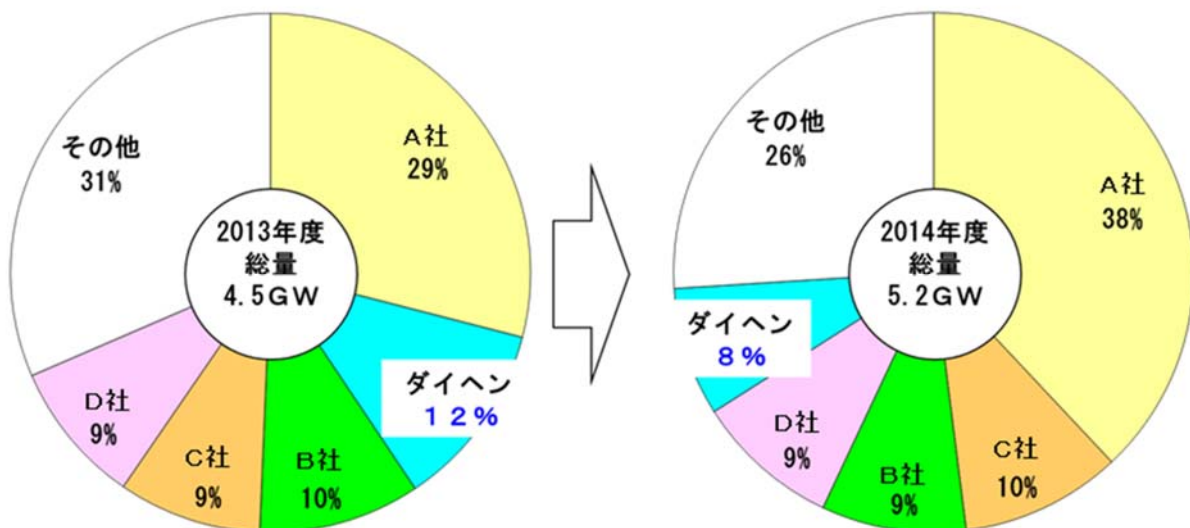
## 電力会社向け柱上変圧器は4割のトップシェア



※ 【出展】 JEMA統計データ及び当社独自調査(修理含む)



## 太陽光発電用パワーコンディショナーのシェアは若干低下

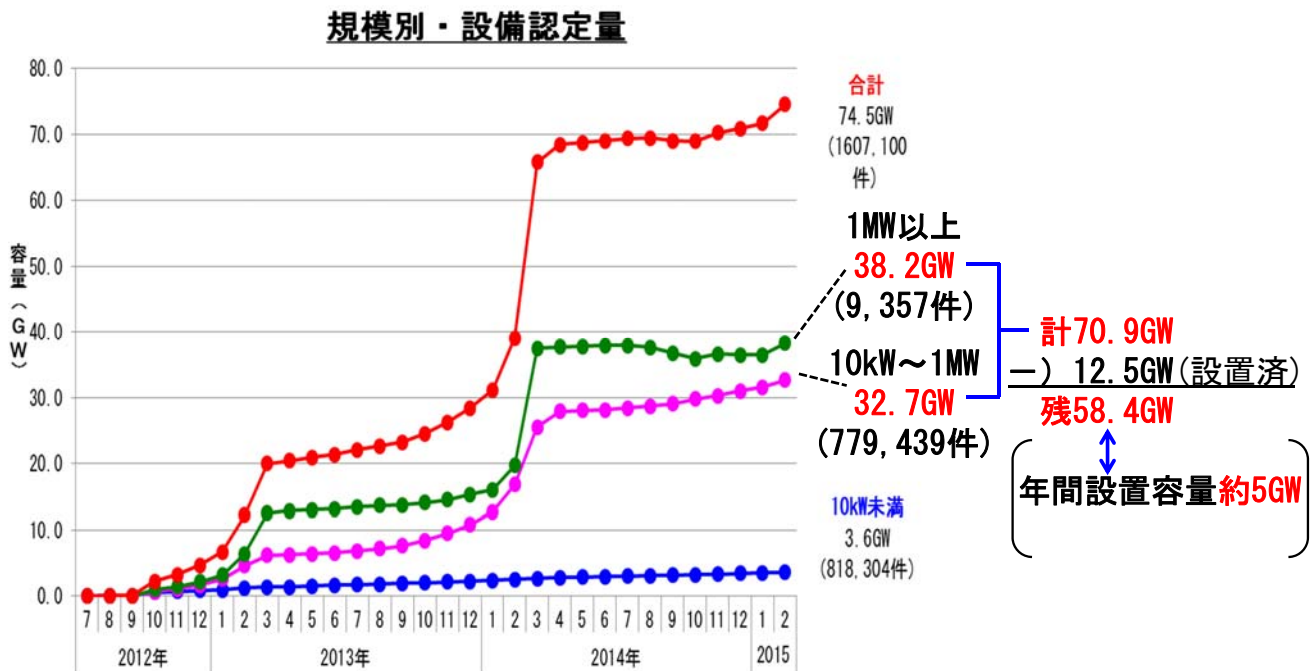


・ 2014年度は今後の市場予測に基づき大容量500kw・入力電圧1000Vのエアコンレスパワーコンディショナー開発を優先し、系統連系協議済み他社案件受注を目指した。  
 ⇒ 他社案件の置換えは進まず、250kwのFRT対応機の品揃え遅れからシェアは低下した。

※ 【出展】 JEMA公表の総量に基づく当社独自調査



## メガソーラ需要は当分高水準で推移する



※【出展】 経済産業省



## “エアコン・レス”パワーコンディショナーは優位

- ・ 新たな冷却方式を採用した**世界初の完全密閉型**  
**“エアコン・レス”パワーコンディショナー**  
**1000v仕様、500kw機を開発**

＜エアコンレスパワコンの特徴＞

- ・ 業界最高の電力変換効率**98.8%**を達成
- ・ エアコンの消費電力削減により発電効率をアップ
- ・ エアコンのメンテナンス費用が不要
- ・ 現場工事半日
- ・ 設置面積半減

⇒ 500kwの売電事業において、

20年間で約**26百万円**の収益性向上に貢献可能  
 ( 当社パワコン価格20百万円 < 顧客収益性向上額26百万円 )

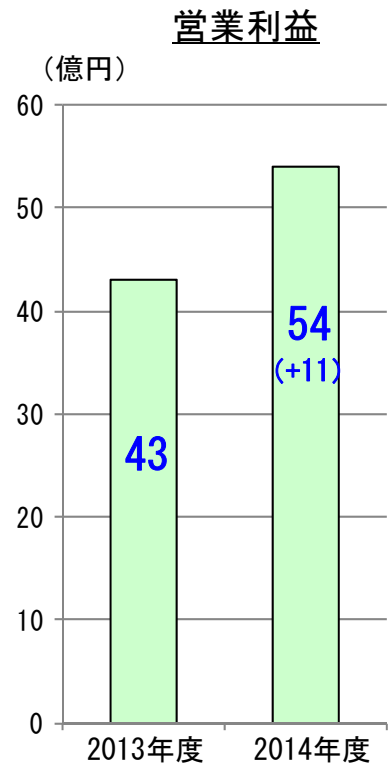
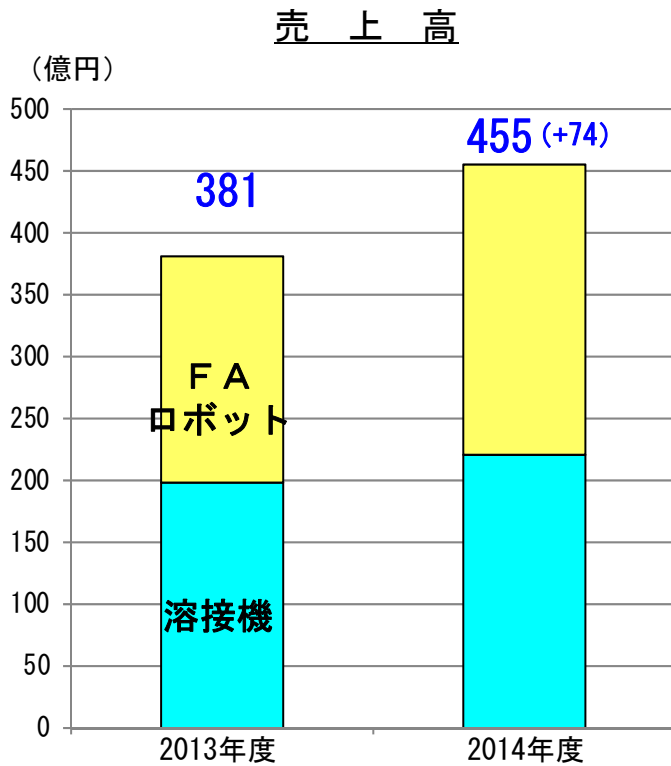


＜“エアコンレス”  
 パワーコンディショナー＞

- ・ 新規引合多数(260MW相当<当社年間売上高の半分相当>)あり。  
 ⇒ 2015年度はエアコンレスパワーコンディショナーを武器にシェア回復を図る。



# セグメント情報 2 溶接メカトロ



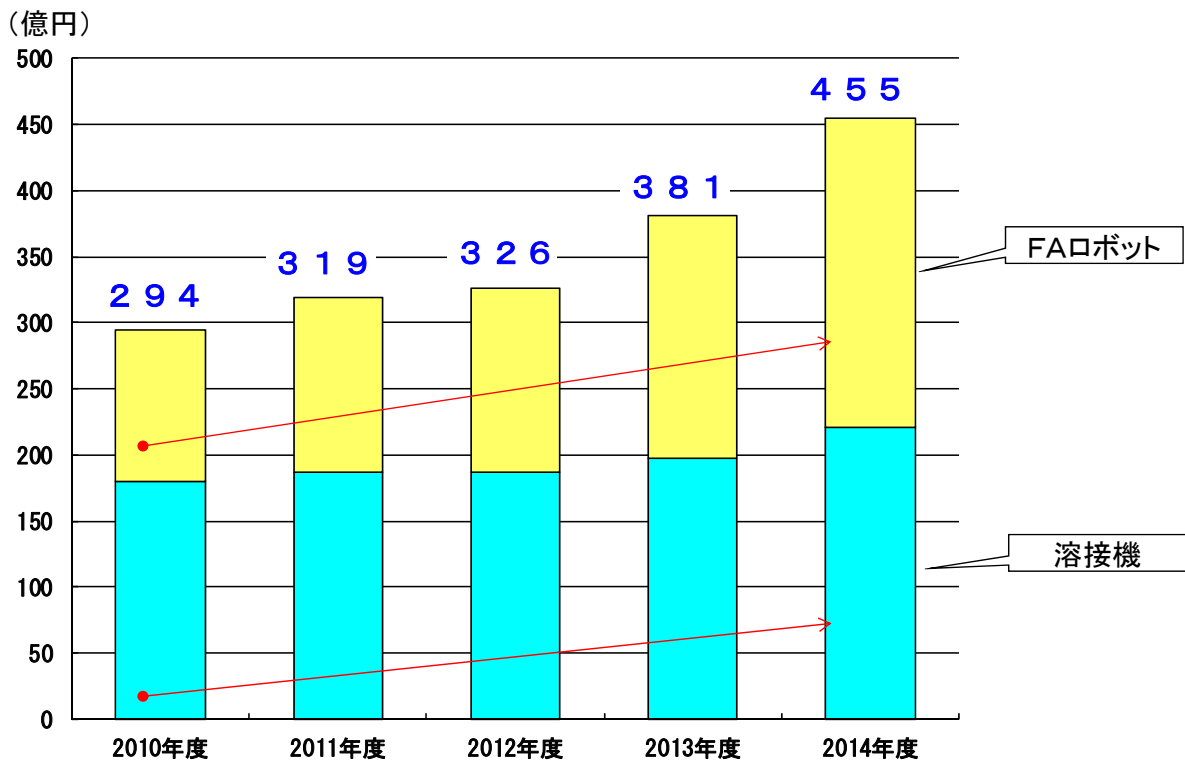
※ ( ) 内の数値は前年度比増減額



P9

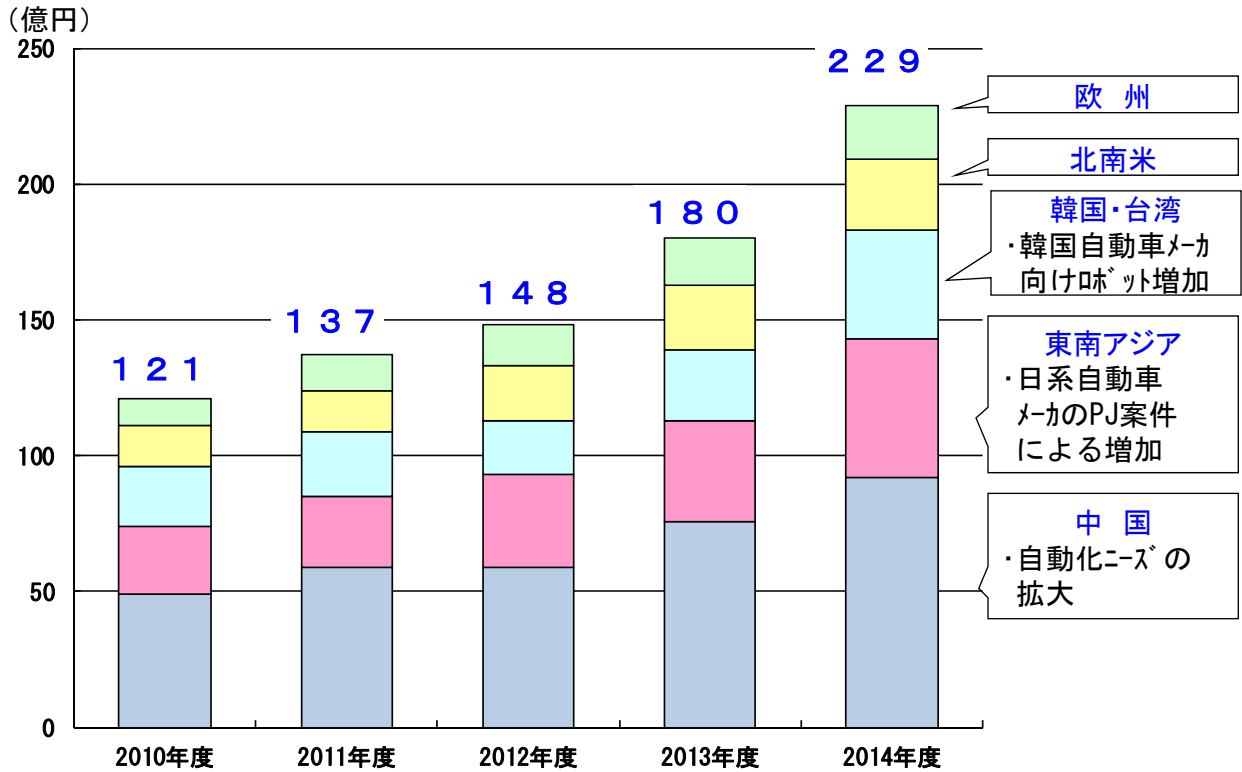
## 2 溶接メカトロ

### 溶接メカトロセグメント製品別売上高の推移



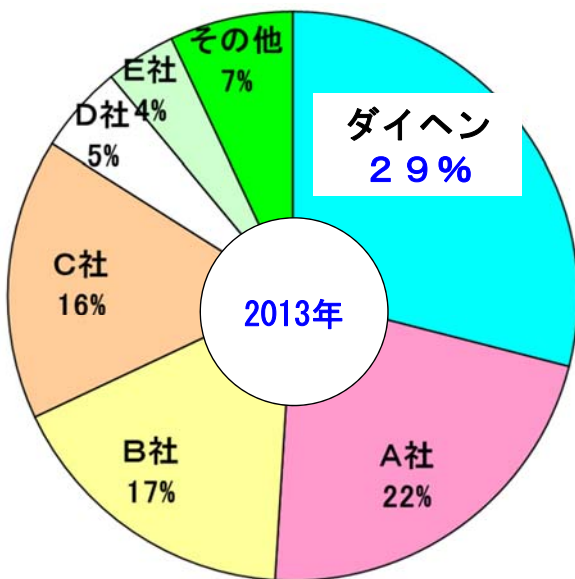
P10

## 溶接メカトロメント海外売上高の推移

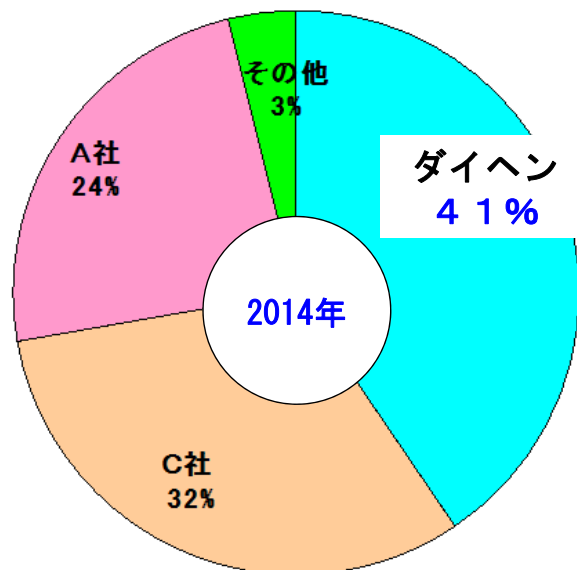


## アーク溶接ロボットは日本でも世界でもシェアNo.1

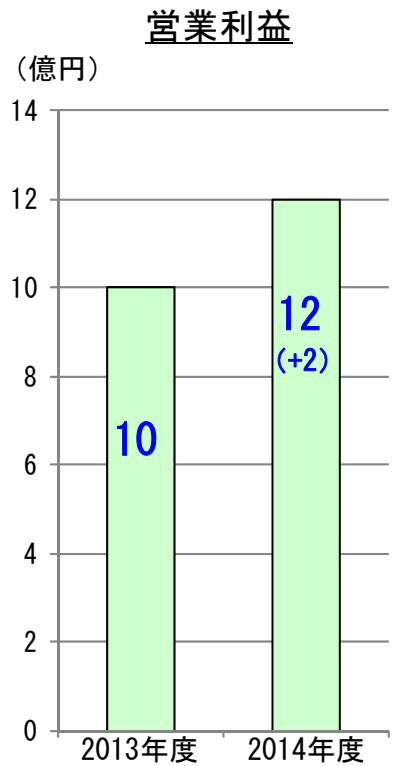
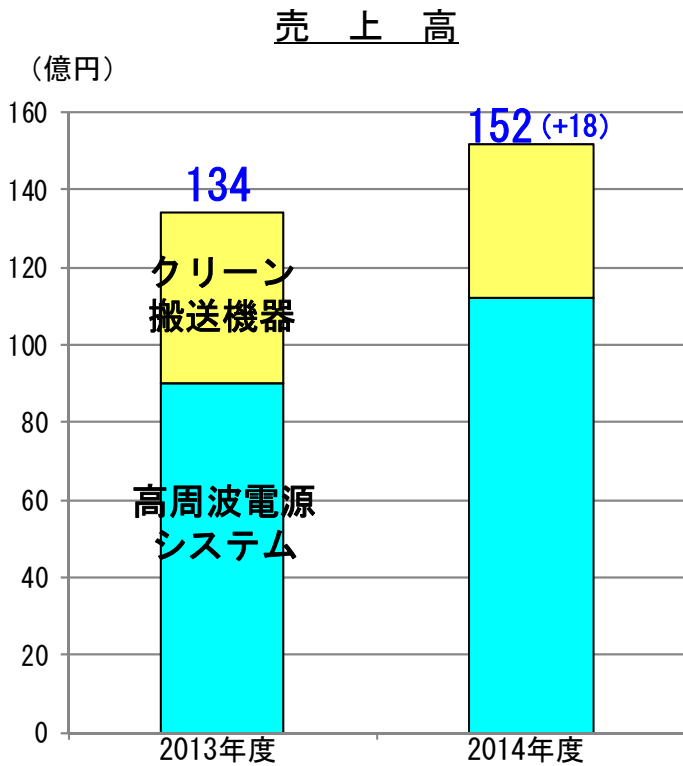
<世界>



<日本>



# セグメント情報 3 半導体関連機器



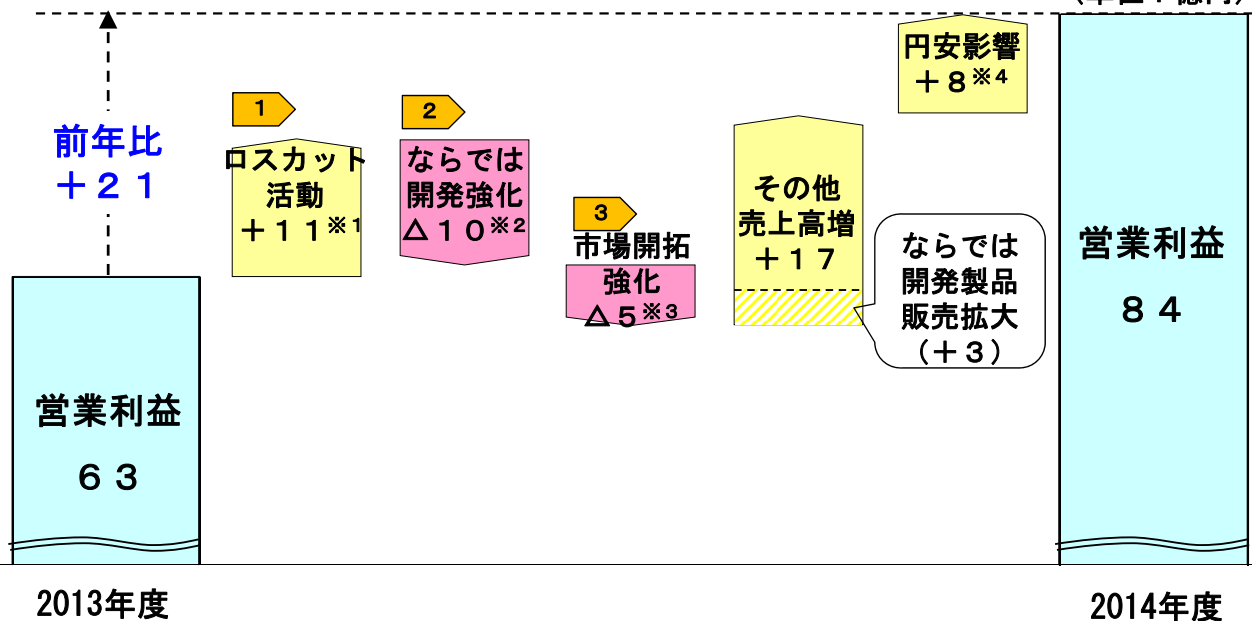
※ ( ) 内の数値は前年度比増減額

DAIHEN

P13

## 2013~2014年度営業利益増加の要因

(単位：億円)



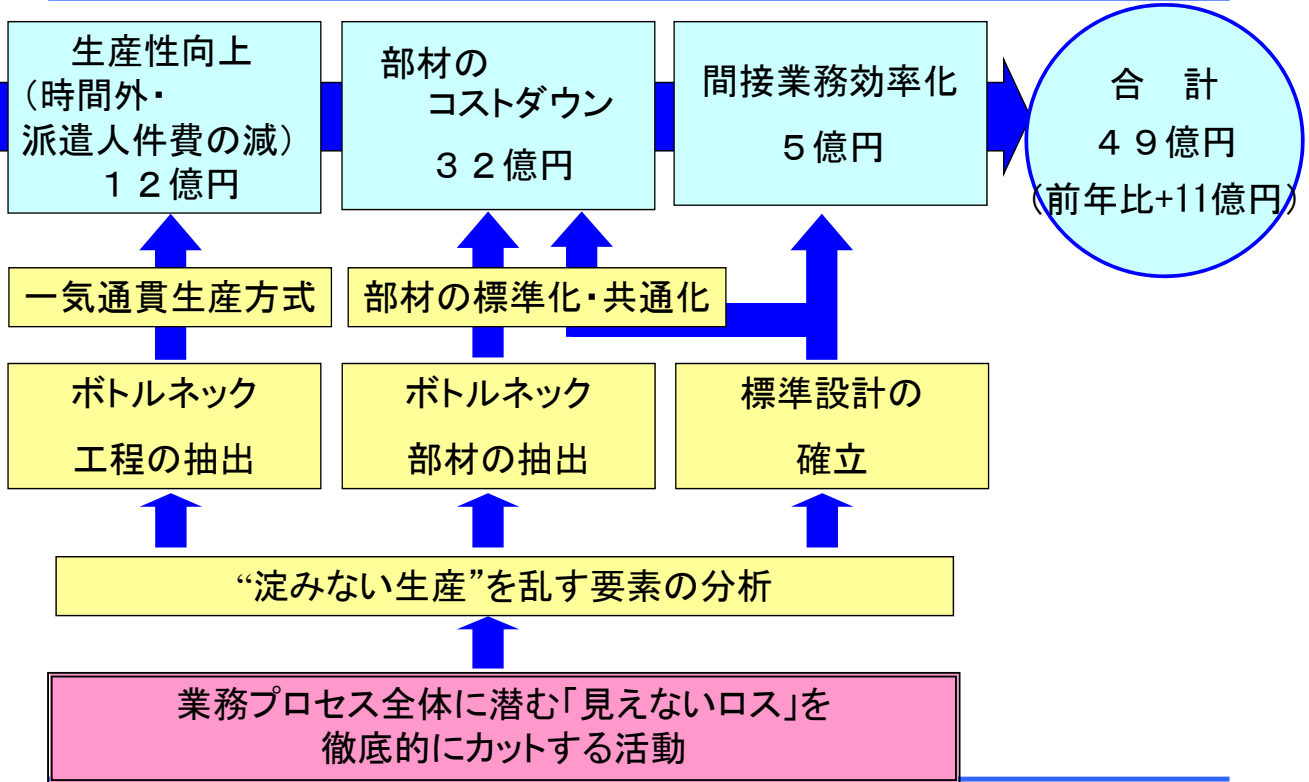
- ※ 1. ロスカット活動 : 2013年度 38億円 ⇒ 2014年度 49億円
- ※ 2. 開発強化 (研究開発費増) : 2013年度 38億円 ⇒ 2014年度 48億円
- ※ 3. 市場開拓強化 : 2013年度 4億円 ⇒ 2014年度 9億円
- ※ 4. 円安の影響 : 2013年度平均100円/ドル ⇒ 2014年度平均110円/ドル (1円/ドル当りの利益影響額 約0.8億円)

P14



1 ロスカット活動

## 2014年度の「ロスカット活動」成果



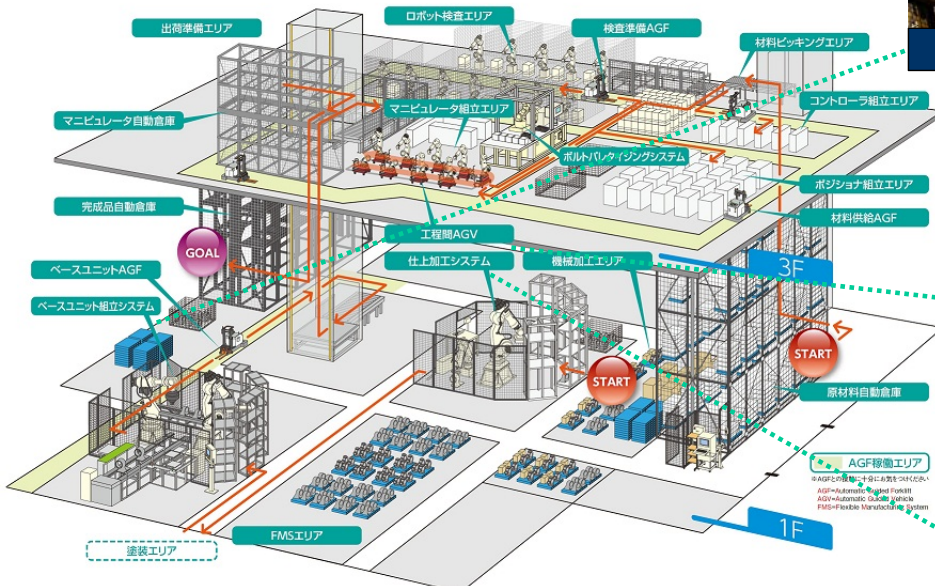
1 ロスカット活動

## 六甲事業所でのロボット生産の自動化

- ・「ロボットがロボットをつくる工場」をコンセプトに、**自社ロボットやワイヤレス給電システムなどの保有製品・技術を活用**し、多面的な自動化を進めた。
- ・お客様の自動化ニーズに対する提案の場としても活用する。
- ・自動化率は現在3割で、今後7割まで引き上げる予定。  
投資額：約4億円 生産能力：1万台/年



ベースユニット組立システム



工程間AGV



仕上加エシステム



## 2014年度の主な新製品

(1) “エアコンレス”  
パワーコンディショナー

- ・世界初、完全密閉型
- ・業界最高水準変換効率 (98.8%)
- ・エアコンの消費電力削減、配管作業不要に  
⇒発電事業者の収益向上 (500kWの売電事業で20年間に約26百万円の収益向上)
- ・スマートソラトラと組合わせたパッケージ  
**DISORA PACK NEO**もリリース



(5) 高周波電源AVANGERシリーズ  
・ラインナップを拡充し、幅広い周波数帯・出力に対応



(6) 4ポート対応EFEM  
“Ophiucus”  
（オフェューカス）

- ・独自機構のウエハ搬送ロボットを採用
- ・小型化（他社比17%減）
- ・装置レイアウトの柔軟性向上

(2) Welbeeラインナップ拡充  
・厚板向け新機種を追加投入

- (3) 7軸  
アーク溶接ロボット
- ・溶接姿勢の自由度向上
  - ・高密度設置が可能



(4) シンクロフィード  
GMA溶接ロボットパッケージ

- ・ワイヤ送給制御と電流波形制御で、幅広い電流域での極低スパッタ溶接を実現  
⇒高速かつ高品質な溶接で生産性アップ



(7) ウエハ外周欠陥検出機能付アライナ “AIGIS(アイジス)”

- ・ウエハ位置決めと同時に欠陥を検出でき、良品率向上に貢献

## 再生可能エネルギー関連・スマートグリッド関連

太陽光発電変電パッケージ  
“DISOLA PACK”

- ・現地工事が簡略で、設置コスト低減とLT短縮に貢献。



ソーラートランスα

- ・太陽光発電に最適。
- ・損失減・設置スペース減。
- ・突入電流抑制機能。



シェアリングトランス

- ・昇圧変圧器や補機トランスを1台に集約。
- ・省スペース化・配線工数低減に貢献。



FRT対応500kWパワーコンディショナー

- ・業界最高水準の変換効率。

エアコンレス  
パワーコンディショナー

- ・世界初完全密閉型エアコンレスパワコン。
- ・インニシャルコスト、ランニングコストの大幅削減で発電事業者の収益向上に貢献。



太陽光発電変電  
設備パッケージ  
DISOLA PACK NEO

- ・エアコンレスをパッケージ化
- ・据付・配線工事簡略化、超スリム設計



分散電源対応  
自動電圧調整器



三相開閉器・子局

- ・再生可能エネルギー増加に対応した各種スマートグリッド機器

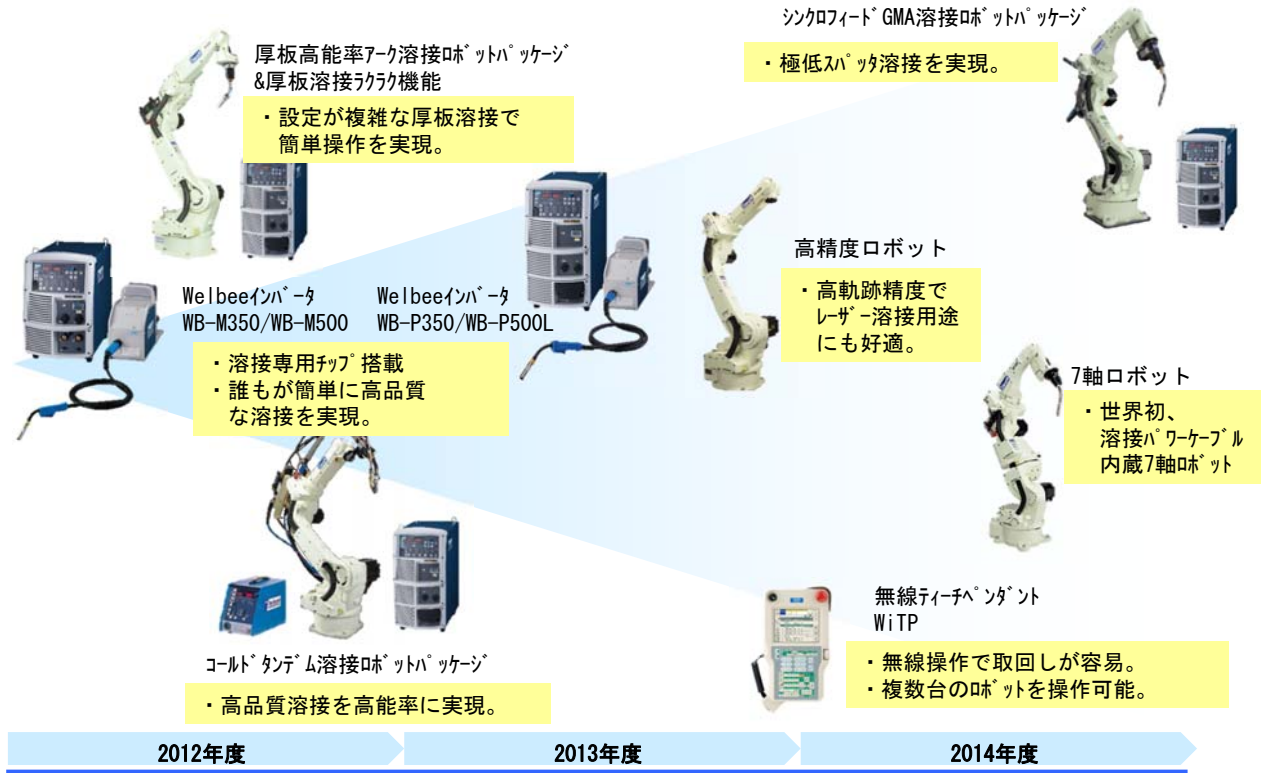
2012年度

2013年度

2014年度

2 「ならでは開発」

## 溶接機関連・アーク溶接ロボット関連



2 「ならでは開発」強化

## 高周波電源関連・クリーン搬送ロボット関連



2 「ならでは開発」強化

## 2014年度の『ならでは製品』の販売実績

	2013年度 実績	2014年度 実績
①再生可能エネルギー、スマートグリッド関連 ・再生可能エネルギー関連（エアコンスパワコン, DISOLA PACK NEO, 他） ・スマートグリッド関連（分散電源対応自動電圧調整器, 他）	120億円	120億円(±0)
②溶接機、アーク溶接ロボット関連	19億円	33億円(+14)
③高周波電源システム関連	16億円	29億円(+13)
その他	5億円	8億円(+3)
	160億円	190億円(+30)



P21

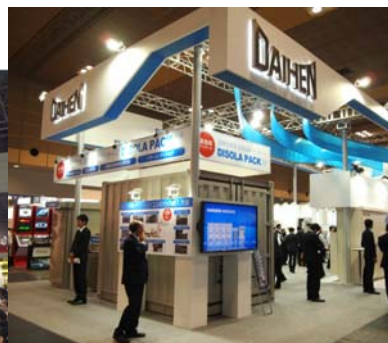
3 市場開拓強化

## 市場開拓強化(マーケットとの接点を磨く)の取り組み

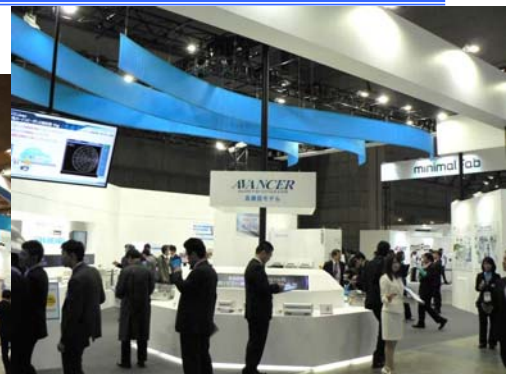
### ■展示会



国際ウェルディングショー



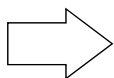
電設工業展



セミコン ジャパン

#### ・統一デザインを採用したブース

- ・・・国際ウェルディングショーの展示を見た海外代理店の方々の声  
「ダイヘン製品を扱う誇りに繋がった」
- ・・・セミコンジャパンを見学した機関投資家の声  
「昨年度の展示とは段違い、意気込みが伝わった」



**ブランド力向上・注目度向上が販売拡大を後押し**



P22

## 市場開拓強化(マーケットとの接点を磨く)の取り組み

### ■テクニカルセンター拡充

- 六甲テクニカルセンター(神戸市東灘区)
  - ・2015年5月オープン
  - ・「ならでは開発」製品などの最先端技術を備えた日本最高水準のアプリケーションラボ。
- 上海テクニカルセンター(上海虹橋地区)
  - ・2015年6月オープン
  - ・六甲テクニカルセンターと同等の機器を備え、中国の自動化ニーズに対応する。
  - ・従来の約4倍の規模となるテクニカルセンターを併設。
- ダイヘンバストロイ(スロベニア)
  - ・2014年6月オープン
  - ・東欧圏No.1の最新設備とスクール機能を備え、溶接高度化のニーズに応える。



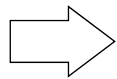
メインエントランス



各種アーク溶接ロボットの  
実演ルーム

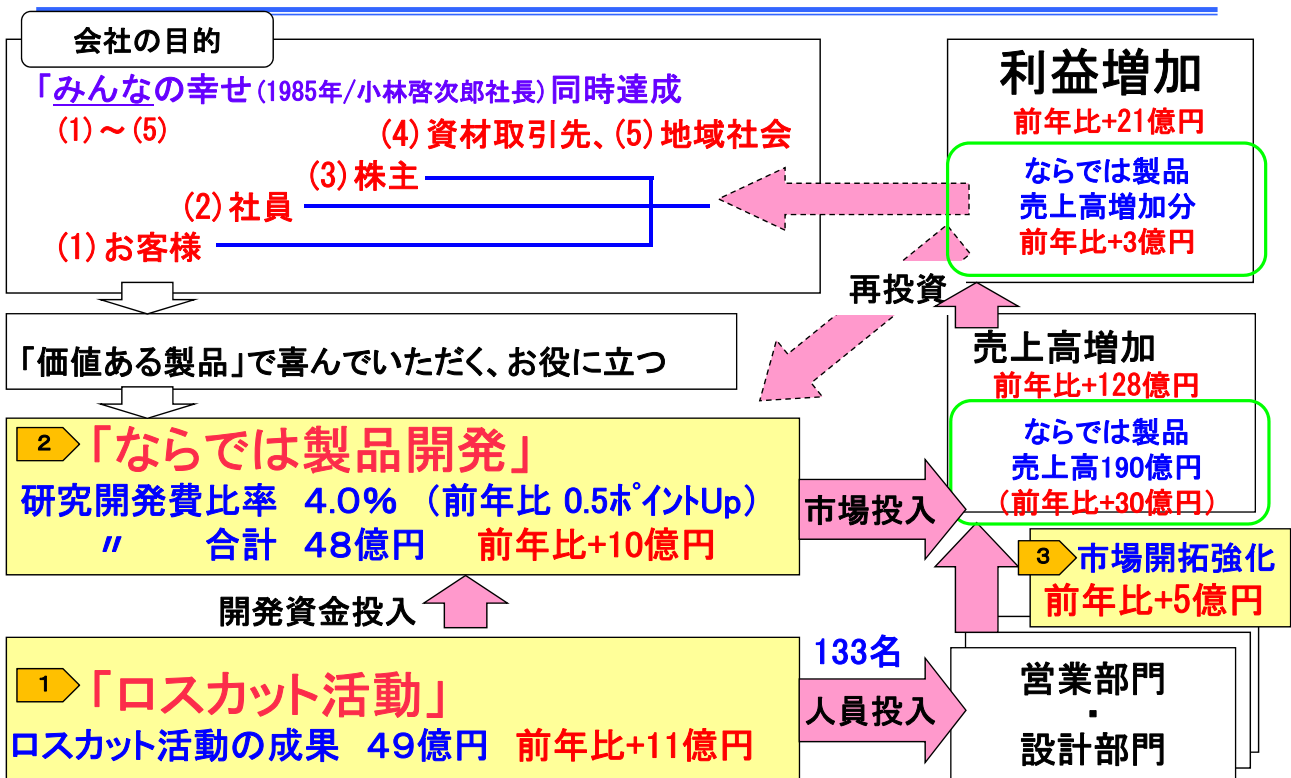


OTC上海新拠点が入るビル  
事務所6F、テクニカルセンター1F



マーケットとの接点の整備が大きく進んだ。  
今後徹底活用により販売強化を図る。

## 2014年度の取り組み成果(ダイジェスト)



# 2015～2017年度中期経営計画 “DAIHEN Value 2017”

## 2015～2017年度中期経営計画“DAIHEN Value 2017”

1 「開発型の会社」を指向。  
「開発中計」の第Ⅱ期として、  
“改善価値”から“創造価値”へ。

2 ロスカット活動は、“整流化”から  
“Cut in Half(単純作業撲滅)”へ。

3 必要に応じてアライアンス  
(含むM&A)を検討・実行。





1 「開発型の会社」を指向/“改善価値”から“創造価値”へ

## 現状認識① やっぱり開発型の会社の利益構造は良い

	研究開発費率 (過去5年平均)	営業利益率 (過去5年平均)
ダイヘン	3%	4%
	2014年度実績 4%	7%

電機・機械平均*	5%	9%
----------	----	----

※東証一部、電機・機械、売上高1000億円台、黒字企業46社の平均

・ 開発費率、営業利益率が共に高い「開発型」の優良企業

A社	13%	11%
B社	8%	10%
C社	8%	11%
D社	7%	10%
開発型企业平均①	9%	10%

・ 開発効率が高く、コンスタントに2ケタの営業利益率を稼ぐ会社

E社	5%	46%
F社	4%	36%
G社	5%	23%
H社	5%	16%
I社	10%	19%
開発型企业平均②	6%	28%

DAIHEN

P27

1 「開発型の会社」を指向/“改善価値”から“創造価値”へ

## 現状認識② まだまだ開発費のかけ方は足りない

◇従来の開発費：売上高比率2%台(2012/3期実績 25億円)

・ 開発者の人件費と実験材料が大半



「カネもかけずに大した開発は出来ない」

◇前中計の開発費：100億円(3年累計・年間約10億円上積み)  
⇒3年累計の開発費は114億円で目標以上

- ・ 2012年度実績の開発費 28億円(売上高比率 3.0%)
- ・ 2013年度実績 " 38億円( " 3.5%)
- ・ 2014年度実績 " 48億円( " 4.0%)

- ・ 中計目標以上に開発費を投じるようになったが、電機平均の開発費率は5%で、まだまだ開発型の会社といえない。
- ・ 新たな中計最終年度には研究開発を5%に引上げる  
(現状比+1ポイント<2017年度売上高1500億円時で+27億円>)

DAIHEN

P28

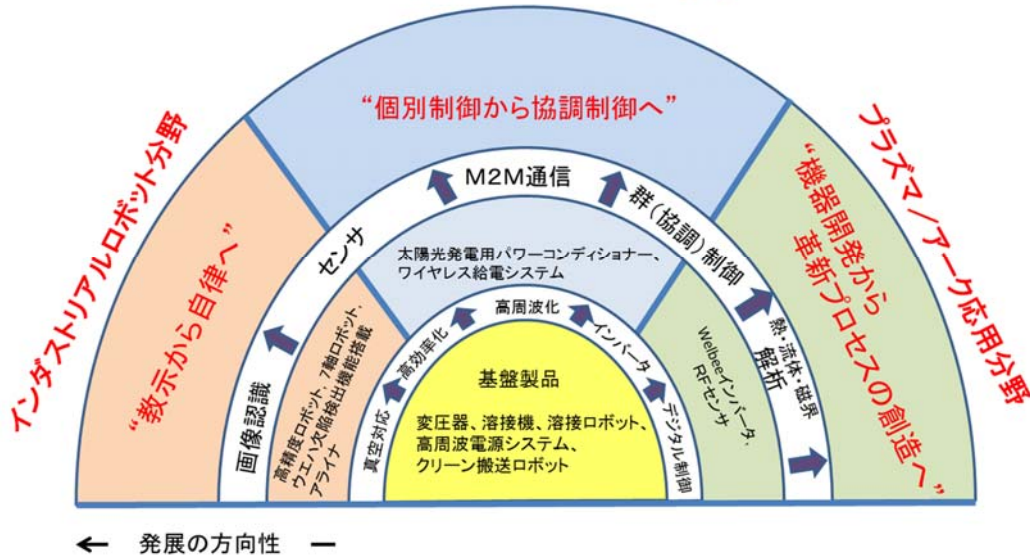
1 「開発型の会社」を指向/“改善価値”から“創造価値”へ

## ～ 「技術ドメインと開発の方向性」の制定 ～

技術者の夢の広がる発展的な捉え方についての徹底議論を経て、再設定した。

- ① インダストリアルロボット分野
- ② パワーグリッドマネジメント分野
- ③ プラズマ/アーク応用分野

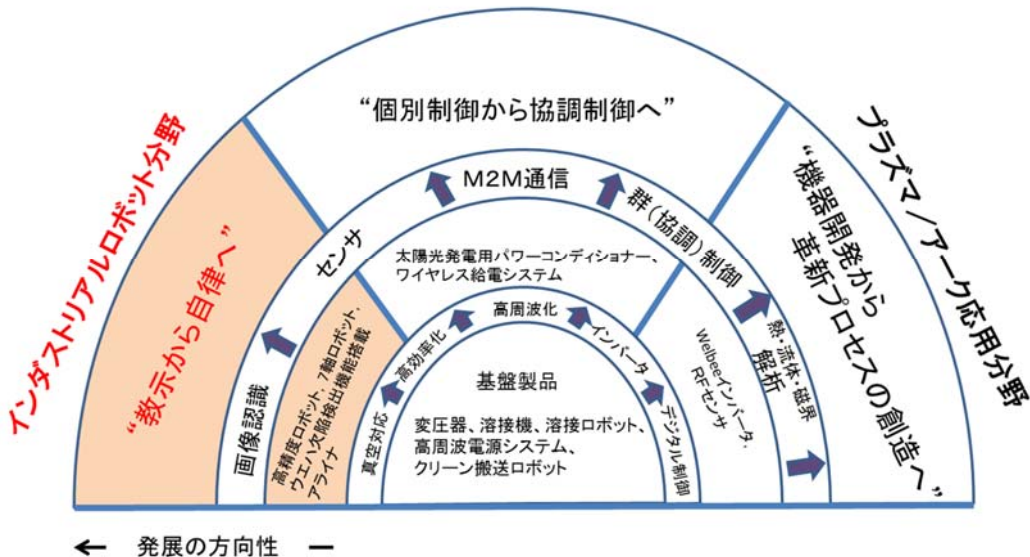
### パワーグリッドマネジメント分野



1 「開発型の会社」を指向/“改善価値”から“創造価値”へ

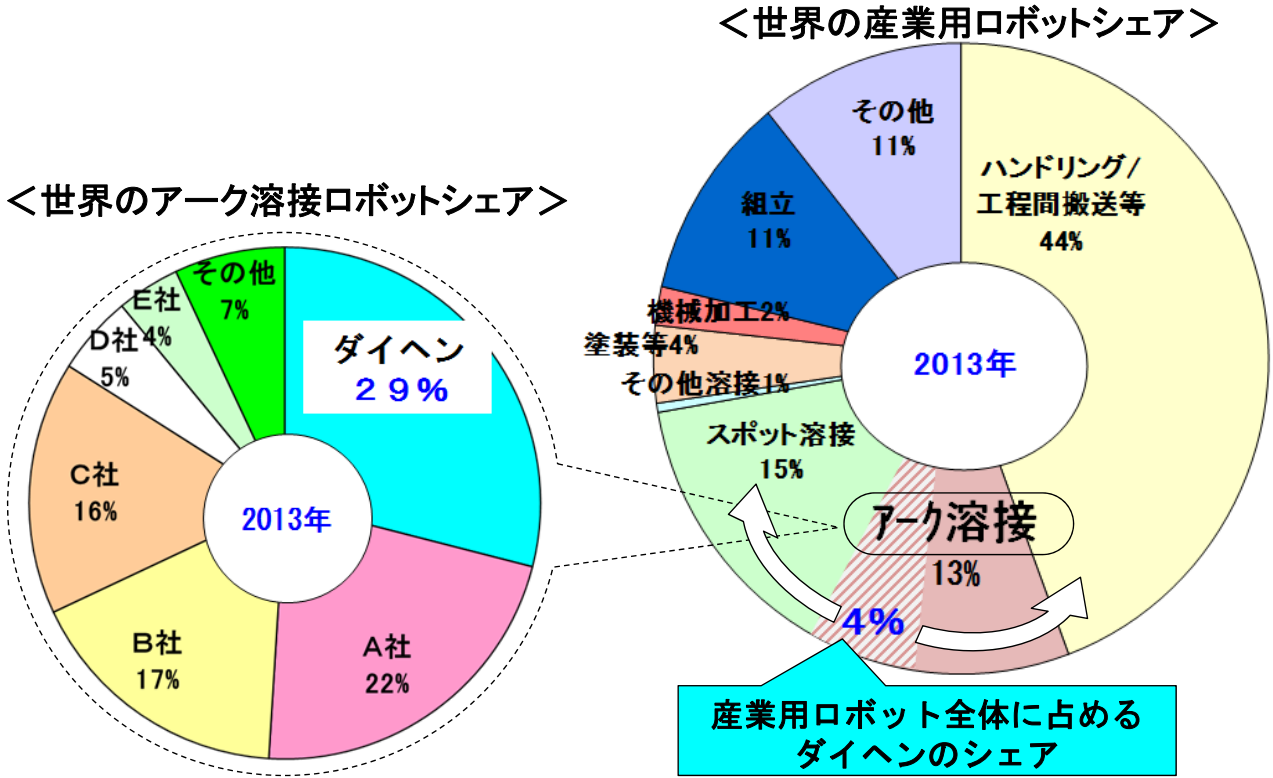
## インダストリアルロボット分野

- ・ 技術開発のキーワード：教示から自律へ
  - ・ 新規事業分野の方向性：アーク溶接, FPD・ウエハ特化でなく、  
FA (非アーク) ロボット、  
クリーン(医薬・食品等) ロボットへ
- パワーグリッドマネジメント分野





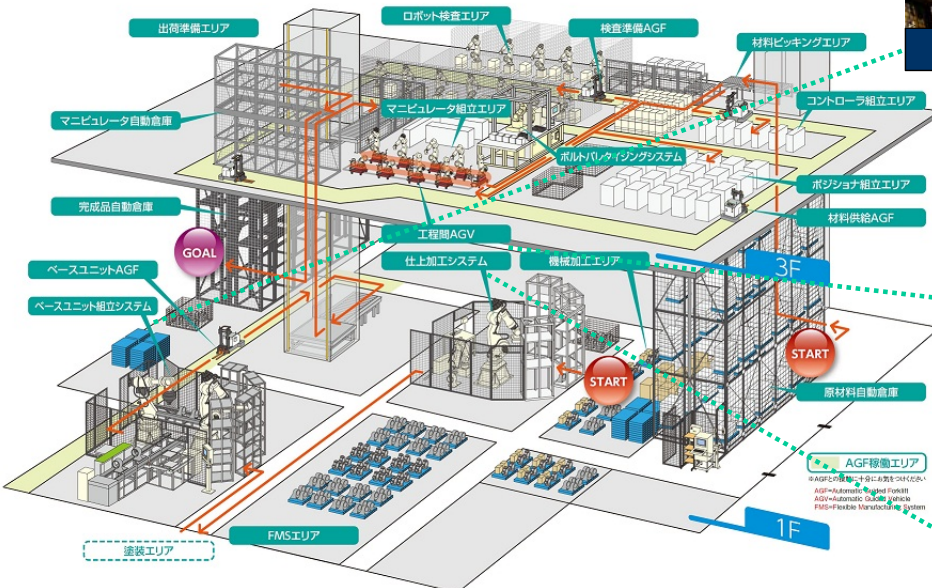
1 「開発型の会社」を指向/“改善価値”から“創造価値”へ  
**世界の産業用ロボットのシェア**



※ 【出展】 産業用ロボット全体シェア : The International Federation of Robotics

1 「開発型の会社」を指向/“改善価値”から“創造価値”へ  
**六甲事業所での自動化を多用途展開に活かす**

- ・ 「ロボットがロボットをつくる工場」をコンセプトに、**自社ロボットやワイヤレス給電システムなどの保有製品・技術を活用し**、多面的な自動化を進めた。
- ・ お客様の自動化ニーズに対する提案の場としても活用する。
- ・ 自動化率は現在3割で、今後7割まで引き上げる予定。  
 投資額：約4億円 生産能力：1万台/年



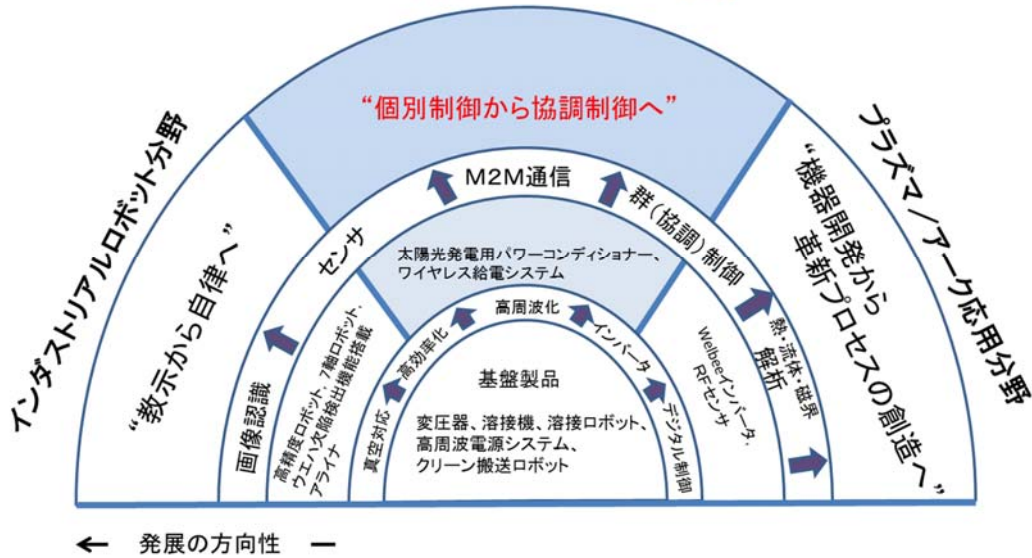
1

「開発型の会社」を指向/“改善価値”から“創造価値”へ

## パワーグリッドマネージメント分野

- ・ 技術開発のキーワード：個別制御から協調制御へ
- ・ 新規事業分野の方向性：変圧器、パワーコンディショナー等の機器単体販売から系統安定化システムへ

### パワーグリッドマネージメント分野

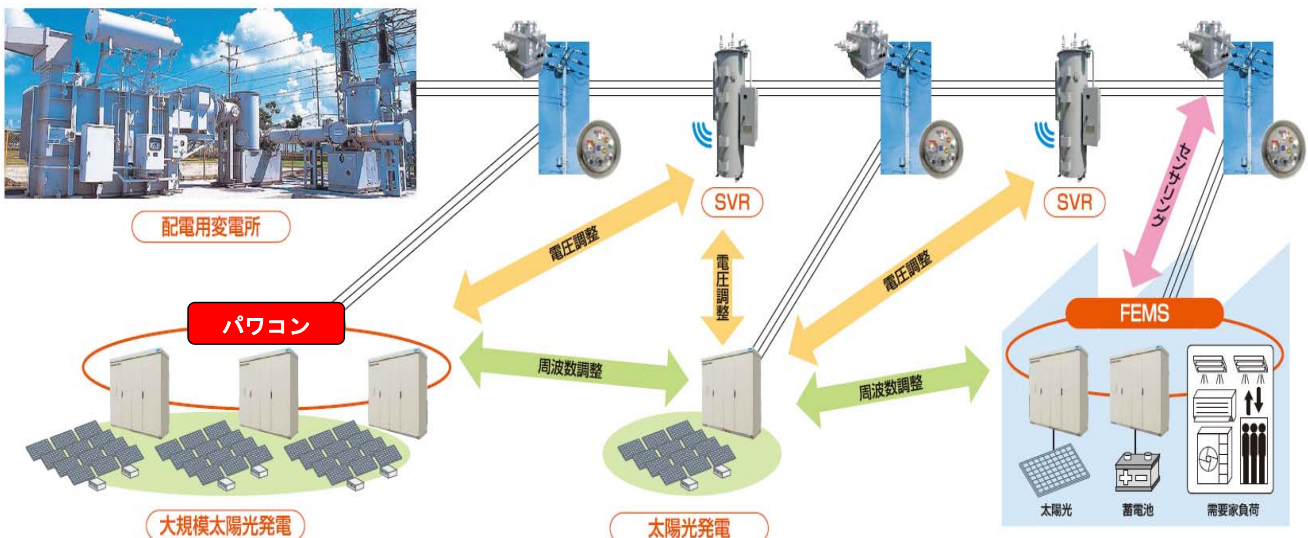


1

「開発型の会社」を指向/“改善価値”から“創造価値”へ

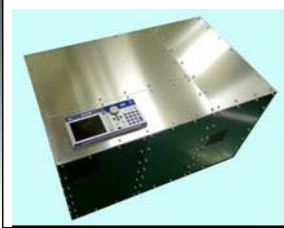
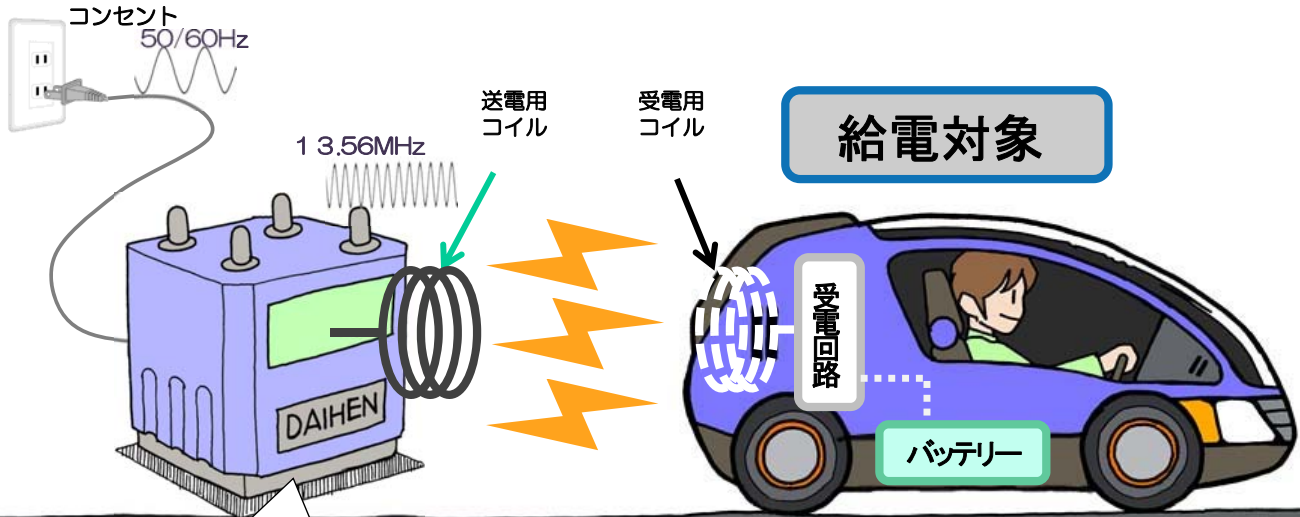
## 機器単体販売から系統安定化システムへ

- ・ 電力網に設置された当社製品（パワコン、SVR（自動電圧調整器等）が“協調制御”することで、電圧・周波数等の系統安定化に寄与する。





1 「開発型の会社」を指向/“改善価値”から“創造価値”へ  
**ワイヤレス給電システム**



**ワイヤレス給電用高周波電源システム**

- ・ 他社にない**高周波電源システム**も品揃え。
- ・ **位置ズレに強く、高効率な給電**を実現。
- ・ **送受電コイルの小型化（車載重量軽量化）**に貢献。



P35

1 「開発型の会社」を指向/“改善価値”から“創造価値”へ  
**ワイヤレス給電システムの販売はAGV(自動搬送台車)から**

- ・ 各種展示会への出展を通じ大きな関心を寄せ頂いた。
- ・ AGV市場でのメーカーポジションを確立し、来るべき電気自動車向け市場拡大に備える

⇒5年後の2021年3月期 **100億円**の販売を目指す  
 (2020年度のEV向け給電システム市場規模予想400億円)



ワイヤレス給電AGVの当社六甲事業所での活用



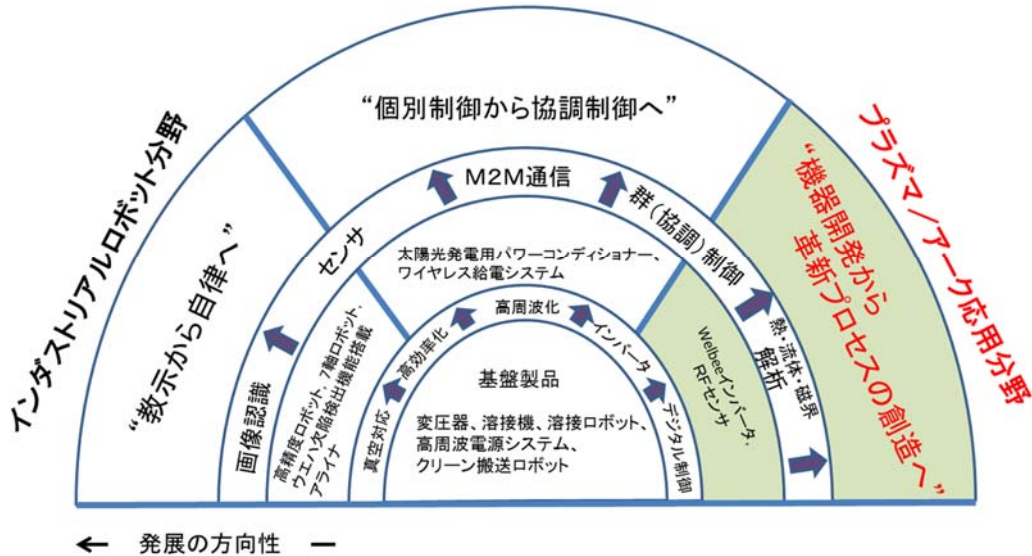
P36

1 「開発型の会社」を指向/“改善価値”から“創造価値”へ

## プラズマ/アーク応用分野

- ・ 技術開発のキーワード：機器開発から革新プロセスの創造へ
- ・ 新規事業分野の方向性：新溶接法、プラズマ源の提供、  
従来アーク溶接では不可能であった分野へ

### パワーグリッドマネジメント分野



DAIHEN

P37

## 2 ロスカット活動は“整流化”から“Cut in Half”へ

- ・ 業務プロセス全体に潜む「見えないロス」を徹底的にカットすることで、大幅なリードタイム短縮と生産性向上を実現する。

### 第Ⅰ期 一気通貫生産方式による“整流化”

2012年度	2013年度	2014年度
<ul style="list-style-type: none"> <li>標準化・共通化の推進</li> <li>IE分析によるレイアウト変更</li> <li>基準日程に基づく生産指示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>WEB会議活用</li> <li>生産設備の自動化検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一気通貫生産ライン構築</li> <li>ロボット生産ライン自動化</li> <li>パワコン外作化</li> </ul>

【活動成果】

	2012年度	2013年度	2014年度
ロスカット活動成果	20億円	38億円	49億円
(売上高比率)	2.2%	3.5%	4.0%
人員シフト(累計)	8人	94人	133人
一人当たり売上高	22.6百万円/人	27.8百万円/人	31.7百万円/人

### 第Ⅱ期 単純作業撲滅“Cut in Half”

◆重点施策

- ①自動化、外作化(直接作業)
  - ⇒単純作業縮減
- ②可視化(間接作業)
  - ⇒ムダ資料・二重入力撲滅
  - 単純作業撲滅
  - ⇒間接部門からのシフト
  - ⇒生産技術部隊強化・自動化推進
- ③モジュール化
  - ⇒自動化・外作化加速

【目標】

- ・ 間接部門業務時間 30%削減
- ・ 直接部門作業工数 40%削減 ※
- ・ トータル生産リードタイム 50%短縮 ※

※印は2011年度比

**残業代、派遣費用50%削減**

**“Cut in Half” 半減**

P38

3 必要に応じてアライアンス(含むM&A)を検討・実行

## ダイヘンバストロイを活用した欧州での事業拡大

<これまでの活動>



- ①ダイヘンバストロイに東欧No.1のテクニカルセンターを開設
- ②デモトレラー（移動するテクニカルセンター）による新規顧客開拓
- ③“CREATING METAL ARTISTS”をコンセプトとした広告宣伝
- ④大学・研究機関・職業訓練校でのWelbee設置推進
- ⑤ダントツ性能を持つ当社Welbee溶接機をバストロイで“Made in EU製品”として生産開始



P39

3 必要に応じてアライアンス(含むM&A)を検討・実行

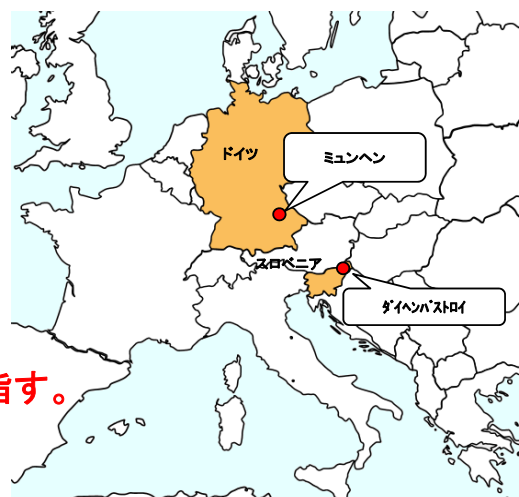
## ダイヘンバストロイを活用した欧州での事業拡大

2015年秋

- ・ミュンヘンにダイヘンヨーロッパ社の販売拠点を新設
- ・自動車をはじめとした産業の中心であり、ダイヘンバストロイからのアクセスも良いミュンヘンに拠点を設けることで、“Made in EU”版Welbeeとサービスパーツの即納体制を整える。

	2014年度	5年後(2019年度)
西欧	19億円	100億円 (シェア10%)
中東欧	14億円	
計	33億円	

※欧州アーク溶接機市場 720億円 } 約1000億円  
欧州アーク溶接ロボット市場230億円 }



- ・米国市場でもアライアンスを活用しシェア10%を目指す。

※北米アーク溶接機市場 690億円 } 約1000億円  
北米アーク溶接ロボット市場310億円 }



P40

3 必要に応じてアライアンス(含むM&A)を検討・実行

## 中国電機製造(株)への資本参加

### 中国電機製造(株)の概要

- ・ 経歴・特徴 : 1938年広島電気(中国電力の前身)の生産拠点として発足、1962年中国電力の100%子会社として分離・設立された会社であり、同社向け柱上変圧器および大形変圧器(配変)で高いシェアを持つ
- ・ 主要営業品目 : 変圧器、変成器、配電盤、制御盤、受変電設備、監視制御装置他
- ・ 売上高の構成 : 中国電力向け約90%、その他約10%
- ・ 資本金・純資産 : 資本金150百万円、純資産6,433百万円(2014年3月末現在)  
(単位:百万円)
- ・ 業績推移

	2011年度 実績	2012年度 実績	2013年度 実績
売上高	11,584	12,524	12,396
営業利益	359	158	336

3 必要に応じてアライアンス(含むM&A)を検討・実行

## 中国電機製造(株)への資本参加

### スケジュール

- ・ 2015年2月5日
  - ・ 中国電力の100%子会社である中国電機製造(株)の株式60%を取得し、共同経営することについて、両社間で基本合意書を締結(適時開示済)
- ・ 2015年7月1日
  - ・ 両社間で株式譲渡契約締結、中国電機製造を当社子会社化する予定

※2015年度業績予想には本件を織込んでおりません。

# 2015～2017年度中計<DAIHEN Value 2017>の業績目標

(単位:億円)

	2011年度 実績	前中計目標 (2014年度)	2014年度 実績	新中計目標 (2017年度)
ROE	4.5%	8.0%以上	9.8%	10%以上
営業利益率	4.0%	6.0%以上	6.9%	8%以上
売上高	930	1,100	1,220	1,500
ならでは製品 売上高	—	200	190	400
研究開発費 (研究開発費率)	26 2.8%	— —	48 4.0%	75 5.0%
ロスカット成果	—	30	49	90



P43

## 財務上の課題 (リターンシナリオ実行の制約)

(単位:億円)

		2015年3月末 実績①	売上1000億円台 同業優良企業※②	差異 ②-①
資産	現金	116		
	有形・無形固定資産	291		
	投資等	222		
	その他資産	696		
	資産合計	1,325		
負債	有利子負債	18.2% 241	14% 186	+4.2P 55
	その他負債	430		
	負債合計	671		
純資産	払込資本	186		
	利益剰余金	350		
	評価換算差額等	95		
	自己資本合計	47.6% 631	62% 821	-14.3P 190
	少数株主持分	23		
純資産合計		654		
負債・純資産合計		1,325	1,325	

今後耐震補強で  
60億円必要

長期的な財務体質  
改善目標

有利子負債は  
55億円多い

自己資本は  
190億円少ない

自己資本比率  
50%超を  
当面の目標とする

※ 売上高 1000億円台、A-格以上の企業10社平均の構成比率に当社の総資産を当てはめた数値



P44



## 財務目標を踏まえたリターンシナリオ (2017年度目標)

### ■ステークホルダーズへのリターン

\* 2017年度目標：売上高1500億円、営業利益率8%達成時

\* 株主還元の業績連動移行については自己資本比率50%超確保を前提として今後検討する（移行目途2017年度）

①お客様へのリターン = 開発費増強 : 5%へ

②社員へのリターン = 同業大手並みの賃金水準へ

③株主へのリターン = 配当金(業績連動による増配)

---

## 2015年度（2015年4月～2016年3月）

### 【業績予想】

# 次期業績予想（全社）

（単位：億円）

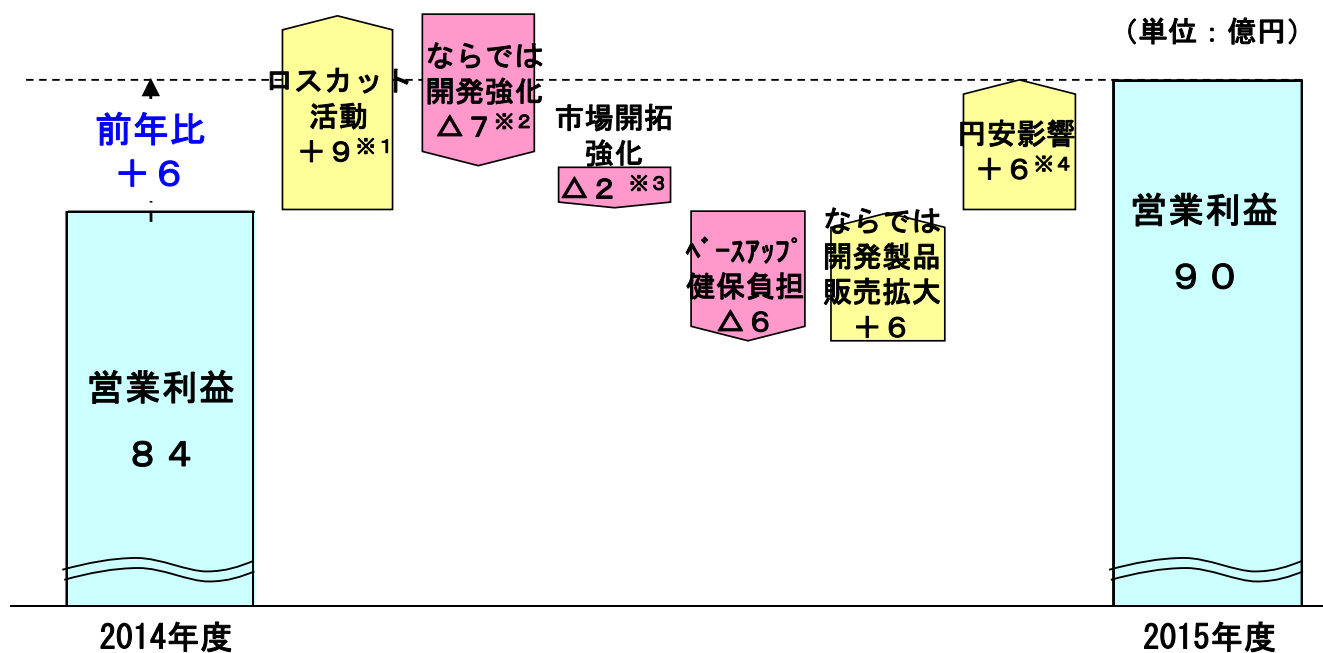
	2014年度		2015年度		前年度比	
		実績		予想		増減率
売上高		1,220		1,250	+30	+4.1%
営業利益	6.9%	84	7.2%	90	+6	+7.0%
経常利益	7.4%	90	7.6%	95	+5	+5.7%
当期純利益	4.8%	58	4.8%	60	+2	+3.3%

DAIHEN

P47

## 2014～2015年度営業利益増加の要因

（単位：億円）



- ※1. ロスカット活動の成果 : 2014年度 49億円 ⇒ 2015年度 58億円
- ※2. 開発費増強(研究開発費増) : 2014年度 48億円 ⇒ 2015年度 55億円
- ※3. 市場開拓強化 : 2014年度 9億円 ⇒ 2015年度 11億円
- ※4. 円安の影響 : 2014年度平均110円/ドル⇒2015年度想定118円/ドル  
(1円/ドル当りの利益影響額 約0.8億円)

(単位:億円)

	2013年度 実績	2014年度 実績	2015年度 予想
ならでは製品 売上高	160	190 (2013年比+30)	250 (2014年比+60)
研究開発費	38	48(2013年比+10)	55(2014年比+7)
ロスカット活動 の成果	38	49 (2013年比+11)	58 (2014年比+9)
設備投資額	29 (うち自動化 4)	37 (うち自動化 5)	60 (うち自動化 10)
減価償却費	40	44	44

DAIHEN

P49

## 次期業績予想 (セグメント別)

(単位:億円)

		2014年度 実績	2015年度 予想	前年度比	
					増減率
電 力 機 器	売 上 高	610	625	+15	+2.4%
	営業利益	8.2% 50	8.3% 52	+2	+3.9%
溶 接 メカトロ	売 上 高	455	460	+5	+1.2%
	営業利益	11.9% 54	12.6% 58	+4	+7.3%
半 導 体 関 連 機 器	売 上 高	152	165	+13	+8.2%
	営業利益	7.8% 12	7.9% 13	+1	+9.0%

DAIHEN

P50

## 将来予想に関する注意点

---

- ・本資料には、当社（連結子会社を含む）の見通し等の将来に関する記述が含まれております。  
これらの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報を基礎とした判断および仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、将来における当社の実際の業績と大きく異なる可能性があります。
- ・なお、上記の不確定性および変動可能性を有する要素は 多数あり、以下のようなものが含まれます。
  - 主要市場における経済情勢及び需要・市況の変動
  - 主要市場における政治情勢や貿易規制等各種規制
  - 為替相場の変動
  - 原材料価格の相場変動
  - 競争企業の製品・サービス、価格政策、M&Aなどの事業展開
  - 弊社の提携関係に関する提携パートナーの戦略変化

---

## 【参 考 資 料】

## 次期業績予想 (セグメント別売上高・利益の四半期推移)

(億円)

		2014年度				2015年度			
		第1Q 実績	第2Q 実績	第3Q 実績	第4Q 実績	第1Q 予想	第2Q 予想	上期 予想	下期 予想
電力機器	売上高	114	144	153	199	140	160	300	325
	営業利益	5	12	15	18	11	14	25	27
溶接 メカトロ	売上高	85	116	109	145	110	110	220	240
	営業利益	7	16	13	18	13	13	26	32
半導体 関連機器	売上高	34	30	36	53	45	35	80	85
	営業利益	3	1	2	5	4	2	6	7
全社合計	売上高	234	291	298	397	295	305	600	650
	営業利益	6	22	23	33	20	20	40	50

DAIHEN

P53

## 次期業績予想 (セグメント別受注高・受注残高の四半期推移)

(億円)

		2014年度				2015年度			
		第1Q 実績	第2Q 実績	第3Q 実績	第4Q 実績	第1Q 予想	第2Q 予想	上期 予想	下期 予想
電力機器	受注高	154	145	187	158	160	140	300	315
	受注残高	221	221	255	214	234	214	214	204
溶接 メカトロ	受注高	109	99	120	134	105	115	220	245
	受注残高	77	59	70	60	55	60	60	65
半導体 関連機器	受注高	34	39	50	44	35	45	80	90
	受注残高	28	36	50	42	32	42	42	47
全社合計	受注高	298	283	357	336	300	300	600	650
	受注残高	326	317	376	315	320	315	315	315

DAIHEN

P54

## 将来予想に関する注意点

---

- ・本資料には、当社（連結子会社を含む）の見通し等の将来に関する記述が含まれております。  
これらの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報を基礎とした判断および仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、将来における当社の実際の業績と大きく異なる可能性があります。
- ・なお、上記の不確定性および変動可能性を有する要素は 多数あり、以下のようなものが含まれます。
  - 主要市場における経済情勢及び需要・市況の変動
  - 主要市場における政治情勢や貿易規制等各種規制
  - 為替相場の変動
  - 原材料価格の相場変動
  - 競争企業の製品・サービス、価格政策、M&Aなどの事業展開
  - 弊社の提携関係に関する提携パートナーの戦略変化